

民報あばしり

NO.1100

2016.12.25

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二、四四五八
F 四三二、四四五七

「平和都市宣言」都市として もっと積極的役割を!



12月定例会で松浦議員は「平和都市宣言」をすす

た経緯と目的について聞きま

した。市民部長は、平成3年第一回定例会で議員提案で「非核平和都市宣言」に関する決議」が可決され、同年9月の第3回定例会で市長が「平和都市宣言」を行い、市議会も全会一致の満場の拍手で採択したと答えました。

続いて松浦議員は、今年10月に行われた国連総会の第一委員会、核兵器禁止条約の締結交渉を開始する決議案を賛成123カ国の圧倒的多数で採択されたが、唯一の被爆国の日本政府は「反対」の態度をとった。日本国民の意思を踏みにじる態度ではないかと市長の見解を求めました。

市民部長は、当市も加盟している平和首長会議は、核兵器廃絶に向けての都市連帯を推進している。11月8日に平和都市会議は、日本政府に対し「核兵器禁止条約」の早期実現に向けこれまで以上に強いリーダーシップを求める

要請を行ったと答えるにとどま

松浦議員は、平和首長会議に参加している市長として、もっと積極的な態度を示すべきだと求めましたが、明確な答弁はなされませんでした。

※他に、子どもの貧困問題を取り上げ、教育委員会としての取組や支援について、網走の労働実態と女性の労働実態も独自の調査を基に問題点と課題について質問しました。

政治を変える力をもっと大きく



岩 友 参議院議員

私にとって初めてとなった臨時国会を怒りのなかで終えました。自民・公明と維新は、TPP、年金カット法、カジノ解禁推進法を通すために会期を延長しました。いずれも反対の声が大きく、世論調査でもなぜこんなにならぬかを急ぐのかという声があがっていました。

この国民の声を踏みにじてTPP、年金カット法を可決、12月15日未明、多忙な日々を過ごしていますが、今年も最後の奮戦記となりました。最近、思うことは年ごとに一年が早く感じるのですが、4月には64歳になってしまします。今年不幸な出来事は熊本震災です。昨年の秋に行政視察で天草市や上天草市などを訪問しましたが、大きな被害を受けているのをテレビで見ると胸が痛む思いでした。熊本城はこれまでに「幾度かの地震に見舞われて



猫 松浦奮戦モ!



会期を再延長させてまでカジノ解禁推進法を可決しました。このカジノ法、衆議院での審議はたった5時間半。参議院では委員会の場にこれまでに一度も話がなかった修正案が出されるなかで強行されました。日本共産党は最後まで徹底した論戦を行いました。

も崩れることはなかった」と地元の人には自慢していたので、あんな姿になるとは思いもしませんでした。熊本の象徴であっただけに、一日も早い復興を願うばかりです。良いことでは、参院選の一人区全てで野党共闘ができたこと、共産党が議席の倍増をしたことです。来年は衆院選があるかもしれないが、ここでも野党共闘で安倍政権を倒す結果を出したいものです。今年一年お世話になりましたが、来年もよろしくお願ひします。

参院選ではみなさんからいただいた議席をいかして4度の質問の機会をいただきました。国会論戦でも運動でも引き続き奮闘するとともに、総選挙での勝利をめざしてがんばります。参議院議員 岩 友

= 今年最後の宣伝 =



17日「市民のみなさん」とスピーチする『ストップの会』駒場ベーシック店前

流氷

▼いのちの砦裁判全国アクシオンが結成(11月7日)されました。最高裁で実質審議をせず、全国で10年に及ぶ生存権裁判が上告不受理の決定を受けてのことです。▼原告の「死ぬまで闘う」「勝つまで闘う」との言葉を

受けて全国的な闘いにしていく思いからです。閉会あいさつで尾藤弁護士が「声かけよう、広げよう、つながろう、変えよう」の運動が提起され、さいごに「人間中心のいのちの砦を守る出発の日にしていこう」と締めくくりました。▼憲法25条で「全ての生活面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とあります。国が社会保障について責任を放棄しないように、私たちの運動がこれからも重要になります。▼地域によって生活保護費の給付が違う級地問題も全国的なもので早急に級地撤回が必要です。▼冬季加算の引き上げに続き、母子加算、養育加算、教育扶助など月4万円以上削減しようとしていきます。これでは貧困対策どころか、逆に益々広がるに決まっています。▼高齢者から若者まで対立をおおって、国会の多数の力で暴走する政治に、野党と市民の共闘で、御柱を立てて、進めることが必要です。▼最後に、ヤルタ協定やポツダム宣言にも学ぼうとしない安倍政権で領土交渉が進展するのだろうか? オスプレイがバラバラに墜落しても不時着と言うこの国を、市民・国民の声で動く政治にしていきたいと思

生健会 網走班 神田 優